



嘉川地域づくり協議会だより

第10号

平成27年3月31日

発行：嘉川自治連合会
嘉川地域づくり協議会
編集：自治連社会部会

〒754-0897 山口市嘉川 4651-1 山口市嘉川地域交流センター TEL：083-989-2018

いざという時動けるか！

自然災害に備えよう

協議会会長 松崎 恒雄



2月11日に、山口県、山口市の指導や援助を得て嘉川地区として初

めての防災訓練を実施しました。今回の訓練では、台風が襲来し、大雨による洪水やがけ崩れの恐れがあるので避難が必要であるという想定で開始しました。

まず防災本部を立ち上げ、続いて各避難所に避難し、次に全員が川西中学校に集まって福島県から来られた長谷川潔先生の講演を聞き、最後に非常食の試食体験をしました。

この一連の流れの中で、嘉川地区39自治会、各団体、川西中学校の生徒、避難所を提供して下さった嘉川小学校、興進小学校、川西中学校、さらに消防団員や駐在所の皆様方、400名をこえる参加と献身的な協力をいただきました。おかげで、課題はたくさんありますが、大きな成果をあげて終了いたしました。ここに、ご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回の防災訓練をスタートとして、嘉川地区でいつ、どんな災害が起こっても、一人の犠牲者も出さない備えを、嘉川地区をあげて進めていきたいと思っています。



地域防災組織づくり

自治部会長 竹本 憲治郎

嘉川自治連合会では、地域防災活動事業の一環として、各自治会に自主防災組織の立上げを進めてきました。しかし、その状況は、39自治会のうち、5自治会に設置されているだけで、その推進が課題となっていました。

こうしたとき、昨年9月、嘉川地区が「山口県地域コミュニティ防災活動推進事業」のモデル地域として選定さ

れました。

この事業に取組むにあたり、まず核となる、防災訓練のための組織（仮称・嘉川防災会）づくりに着手するとともに、災害を想定した避難行動タイムスケジュールを作成しました。

組織は、県、市等行政と連携した自治連合会、専門官を主体とした災害対策本部と自治連合会、16団体を5班に分けた避難誘導を行う活動班及び3か所の公的避難所の設置、運営に17団体をあてる編成にしました。

この組織を基に、タイムスケジュールに沿って災害対策本部訓練、避難誘導訓練、避難所運営訓練を行いました。それぞれの方が適材、適所のポジションに就かれ、積極的に活躍されたことから、多くの成果を得て無事終了することができました。

しかし、初めてのことであり、混乱や、多くの課題も浮上してきました。今回の訓練を通して、地域の皆さんの防災に対する意識の高さや、何かしなくちゃあとの思いがあることや、さらにこうした訓練をこれからもぜひやってほしいとの意見も多く寄せられ、今後の取組みにおおいに勇気づけられました。

今後、更に改善を図りながら、いざという時、役立つ組織づくりや地域防災活動をめざして取組んでいきたいと考えています。

自治会への連絡支援

吉村 信一

9時訓練開始。私たちは自治会長に災害情報と避難実施を電話連絡するのが役割です。ほとんどの方は順調につながりましたが、携帯電話に出てもらえなかったり、電話番号が違っているように連絡出来ない方もありました。また、連絡内容に避難所到着時のことを触れていなかったりと問題点が色々出てきました。

今回の訓練は『先ずやってみて、その中で課題・問題点を探り出すことが目的』とのことで、うまくいかなくて当然ではありましたが、訓練でこれだけ問題があれば、実際の災害では大変だと感じました。

今回参加されたスタッフ、住

に参加して



民の方にも多くの気づきがあったと思います。次回以降の訓練(？)、また実災害にできるだけこれらを反映させて、少しでも被害に会わない様にしたいものです。今回の訓練は大変意義があったと思います。参加された皆様、お疲れさまでした。



避難所運営に携わって

藤井 和夫

検討を重ねて実施した初めての訓練は、様々な状況の変化に即して情報を交換し、各担当で臨機応変に対応した結果、全体的には概ね良好な成果が得られました。しかしながら、実際の災害発生は種類、規模、時間帯等々、すべての状況が異なります。これらに迅速、的確に対応する必須条件は『基本体制の確立』が不可欠であることを実感しました。更に応

用力、判断力、行動力等も必要とします。過去に大きな災害の経験がないことは幸いです。逆に『危険管理意識の希薄』が危惧されます。一人ひとりが「自助」の意識を日常生活の中で培うことが大切であろうと思います。更に、「共助」特に弱者への支援が重要です。『備えあれば憂いなし』今回の訓練の体験が、一助となれば良いと思います。

”きずな“の活動

山村 正子

防災会参加が決定して早速ボランティア募集、24名の参加希望者がありました。

8日の「きずな研修会」修了後、防災会に参加する会員を集め、趣旨説明と当日の役割分担を確認しました。◎非常食係 ◎靴ビニール袋配布係 ◎非常食配布係 ◎整列係 ◎案内係に分かれての活動です。きずな担当係としてきずな世話人会スタッフも加わり、まず体育館の椅子並べから活動が始まりました。キャップと腕章を付けたきずな会員の生徒達は、大変きびきびと活動していました。

(きずな会員の感想)

・今日一日きずなの活動をして地域の人と話したり、ふれあいが出て良かったです。
・地震が起きた時どうしたらいいか。地震の影響などいろいろ知ることができました。
・今日のようにもし災害があっても、落ち着いて行動できると思います。

防災訓練

2月11日

シナリオのない
発災対応訓練

北の江東自治会長 福岡 和廣

敢えて、「シナリオのない」としたことがわかった。一次避難所の対応にイライラした。事前の打ち合わせは全くなかったのだから。

二次避難所があるのであれば次への行動に素早く決断すること、スムーズな行動ができ、被災を早く感知できるのではなからうか。

今回主催者側が知りたかったのは、一連の流れの中での無駄な時間、次回への試みだったのではと感じた。唯一、中学生たちの対応は、何回か訓練された結果かと思つた程、的確な指示だった。空振りかもしれないが自主避難を、我々の自治会では今年も実施する構えです。



準備万端かと思つたが…

避難所運営・炊き出し班 井上 栄子



今回の訓練において炊き出し班の任務は、訓練参加者に非常食を提供することになりました。

連絡網で関係者に電話連絡を済ませ、川西中学校に到着後打ち合わせを行い、万全の態勢で訓練参加者を待ちました。

20〜30分後嘉川・興進両小学校からの避難者が中学校に到着し講演が始まりました。事前の打ち合わせでは避難者は講演修了後、非常食の作り方の説明を受けた後、避難した場所で非常食を食べて帰宅することになっていましたが、実際には参加者の多くは食わずにそのまま帰られました。このような事態になったことについて、どこに問題があったのか、検討してみる必要があると思いましたが。



自主防災と我が集落の問題点

干見折自治会長 清水 敏明



地球温暖化が原因か昨今の気象は異常である。一昨年の阿東、須佐地区の集中豪雨、昨年の広島土砂災害と短時間に100mm〜200mmの想定外の豪雨が局部に集中して降った。多くの死者を出し多大な被害を出した。自主防災組織の活動が叫ばれる時、我が干見折集落はどうすればいいのか？地理的に後ろの山（がけ崩れ警戒地域）を背負い目先に防潮堤が連なる川（山裾）に列をなして家が点在する小集落。平成11年の台風18号では高潮が防潮堤を越えて浸水した。また30余戸の集落は高齢者が半数以上を占める限界集落である。避難情報が出た時または危険を感じた場合いかに老人パワーを集結するかが今後の課題である。〈自分の命を人に預けない。自分の命は自分で守る〉これが原則です。

この一年をふり返って

協議会会長 松崎 恒雄

5月に、佐光前会長の後任として、会長を務めることになりましたが、正直なところ、わからない事が多く、私の性格的な弱さもあってひとつひとつの事業に無我夢中で取り組んだ1年でした。そうした中で、自治連合会の理事や委員の皆さん、また地域の皆様方のご指導やご支援、ご協力のおかげで、平成26年度の事業が終了できますことをとてもうれしく感謝しております。ありがとうございます。

今年度の事業で特に印象に残っていることが3つあります。1つ目は、8月22日に、渡辺山口市長さんをはじめ、市の幹部と意見交換をした「車座トーク」です。この会の持ち方をどうするかで何回も会合を開いたことが思い出されます。

2つ目は、5年間続けてきた嘉川の遺跡史跡の顕彰事業が今年度で終了し、皆様方のご家庭に、「嘉川遺跡史跡ルートマップ」と「ふるさと嘉川の遺跡・史跡」をセットでお届けすることができ



とです。この冊子を手にして、嘉川地区に生まれた先人の偉大さやご苦労に感謝し、これからの嘉川について明るい展望を考察いただけたらと期待しています。3つ目は、2月11日に初めて実施しました「嘉川防災訓練」です。たくさん課題はありますが、ひとつひとつを検証して、これからいっどんな災害が起きても対応できるよう、組織の拡大充実、防災機器整備、避難訓練等を進めていきたいと思っています。

最後に、明るいニュースとして、子ども達の活躍をあげておきます。川西中学校の有志合唱団がNHK全国音楽コンクールに出場して優良賞を獲得したこと、ボランティアサークル「ぎずなの」活躍、また、小学生、中学生がとも元気に明るいあいさつをしてきていること、嘉川を、私たち大人をたいへん元気にしてくれたことです。児童・生徒の皆さんありがとう。



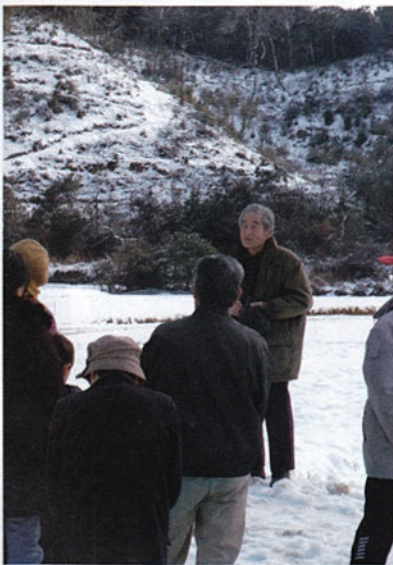
嘉川の遺跡・史跡誌が完成

社会部会 田中 博

嘉川の史跡標柱建植は、平成23年2月13日雪の中、佐光前会長の挨拶で東本郷から始まりました。5年間の活動を振り返ると雨の日や風の日、中でも平成23年3月12日の原地区作業は、東北地方を襲った大津波の翌日で全員が黙祷して作業を開始しました。この活動では嘉川の歴史を知り、携わった方たちの証として記しています。平成27年3月末に冊子



にマップを折り込み配布して事業を完了します。この活動を支えていただいた多くの皆さんにお礼を申し上げると共に、地区内を巡る資料として永く愛されることを願っています。



第1回標柱建て 東本郷にて

テーマ

ふるさと嘉川への私の想い

私の道・歌

稲葉 洋子(旧姓 後藤)(下中野)

音楽を友として半世紀が経とうとしています。

3歳でピアノを習い始め、その後、音楽を将来の道と決め音楽大学に進みました。

私の歌の原点はと考えると、小さい頃、父が車に乗せて、いろんな歌を教えてくださいましたと思います、特に「オ・ブレネリ」という歌は嘉川ののどかな景色とともに今でも鮮明に覚えていて、私の心を和ませる歌の一つです。大学入学そして結婚を機に嘉川が遠くなりましたが、いつ行っても何十年と変わらない風景と人柄の優しさに触れるたび、故郷があることの幸せを感じます。

音楽仲間に「あなたの声はとても温かい音



色。誰とても調和する声ね」とよく言われます。私の歌声と音楽性は、この嘉川の恵まれた自然と人情味あふれる人々の中で育まれた賜物だと思っています。

現在、オペラ、ソロ活動、そして後進の指導にあたっているかたわら、2011年に起きた東日本大震災はじめ数々のチャリティコンサートに参加しております。

一人の人間として、子どもを持つ親として、少しでもお役に立てたらと微力ながら歌わせていただいております。

この数年、私の母校である川西中学校が、合唱コンクールや音楽コンクール(私もかつて出場した)に何度も入賞されたと聞きました。とても嬉しいことです。

是非、後輩の皆さんと一緒に故郷である嘉川で歌えることを願っています。

季語溢れる産土(うぶすな)

杉山 久子(上嘉川)

嘉川に暮らしてもうすぐ半世紀になろうとしていることに気づいて驚いています。そして、その半分の年月を、私は「俳句」という文芸に関わってきました。この俳句を通して

眺める時、豊かな自然の残る嘉川という土地は、季語の宝庫であると気づかれます。

子どもの頃、春は蓮華畑を駆けまわり、夏は蛍や色々な虫を追いかけ、秋も冬も野山で遊んでいました。

また、季節の行

事も生活の中の大切な楽しみでした。春は萬福寺のお釈迦様の花祭。学校も半日お休みになり、わずかなお小遣いを握りしめて、当時はたくさん出ていた露店を巡ったものです。秋は嘉川八幡宮のお祭り。彼岸花に彩られた道を仲良しの子と歩いたのも懐かしく思い出されます。

当時はそれが季語とは知らなかったものばかりですが、五感を通して自然の、そして生活の様々を身の内に取り込んできたことは確実です。大人になって季語という詩の言葉を知ってから、その記憶と今が重なりながら作品へと昇華されてきているように思います。

東日本大震災以来、「産土」という言葉が頭から離れなくなりました。津波や原発事故により産土を奪われた方々、今も苦しみ続けておられる方々のことを思う時、このあたたかな産土に暮らす幸せを噛みしめ、感謝せずにはいられません。



いのちを思うこと

美しい嘉川の
自然保護に寄せて

松村 桂子(宮の原)

「山紫水明」と称えられた日本の自然風景。しかし、全国的に農業人口の減少と高齢化に伴い、耕作放棄地が増加しつつあるといわれています。私の家の田畑もその通りです。

稲作請負の方が辞められて、20年前頃から自分達で管理することになりました。

夫と共に退職後中古トラクターを買い、一年間に4、5回耕し、草刈りもし、何とか荒地はせずに保持してきました。

しかし、現在は夫の発病とともに一変しました。私だけでは守り切れず、勤め人の長男の手を借りても守り切れず、耕作放棄地となりつつあります。

そこへ昨年末、隣地区の方がアルバイトで4、5日かけて見事にきれいに刈り取って下さいました。おかげで新年を晴れ晴れとした心地で迎えることができました。

見渡せば、近所の方も同じようにして刈り取ってもらわれた様子です。

人手が無く、放棄せざるを得ない地主と借り手となって下さるアルバイトの方が、上手くマッチングできるなら、放棄地を防ぎ、美観を保つことができているのではないのでしょうか。

そんなアルバイトの「整美隊組織」が出来たらいいなあ、後期高齢者の私は願っています。

お互い支え合えれば

渡邊 あつ子(西本郷)

最近、目や耳に、高齢者、認知症、介護といった言葉や文字がたくさん入ってきます。

壮年期を過ぎますと、体力や気力など様々な衰えを年を重ねる毎に感じます。そして段々と生活に支障を来しゴミ出しとか電球の取り替えなど、小さなことが出来なくなったりと不便を感じ出します。

そんな場合、「助けて下さい」と容易に発信ができ、また誰もが声を掛け合うことが出来る「遠くの親類より近くの他人」とか「向こう三軒両隣」といった互いに手を携え、そして仲睦まじく、老若男女が安心して生活できる地域になればと思っています。

人は誰も、同じように老いて行きます。

困ったことや心配事がありましたら自治会長や民生委員は、行政機関とのアンテナ役として活動していますのでお気軽に相談してください。



嘉川地区をウォーキングで探訪しませんか

嘉川元気会は嘉川地区社会福祉協議会が行う地域おこし、人材活用目的で、平成24年度末に発足し、25年度から「嘉川地区探訪ウォーキング」を開始しました。この2年間で7回実施し、参加者も延べ人数で約200人ありました。また、この間、嘉川の39自治会のうち、23地区をウォーキングしました。27年度も5回の計画を立てていますが、できれば全地区を探訪したいと思っています。

○スローガン

みんなで知ろう、みんなで

楽しもう、みんなでつながろう

○どなたでも参加できます

○ウォーキングやラジオ体操操で健康増進をはかり、多くの人と仲良しになれば、各地区にある四季折々の風景が楽しめ、各地区の宝物が見られます。

○ピンゴゲームやギターの伴奏に合わせて懐かしい歌を歌って楽しめます。

平成27年度第1回は4月2日(木)に宮の原、西本郷、東本郷地区を探訪します。皆さんの参加をお待ちしています。



編集後記

自分の所は大丈夫と思いがちですが、実際に災害が起きた時私たちはどのような対応ができるのでしょうか。この度嘉川地区全体で取り組んだ防災訓練が、家族や近所、自治会などで話し合う契機になればと思っています。